



「一から全て」、「一流のものを一流のお店に使ってもらう」ことをコンセプトに、畑とハウス1棟で主にハーブ類、リーフレタス、新潟在来種の野菜を、農薬・肥料・除草剤を使わず栽培し、加工、包装、販売までのすべての作業工程を農福連携で行う。農産物を加工することで長期保存を可能とし、付加価値をつけ収入アップを図るとともに、障害者の活躍の場を増やし、「やり甲斐」を育てていく。

基本情報

- 所在地：新潟県新潟市
- 団体名：農園CuRA!（ちゅら）
- 選定表彰：令和3年ノウフクアワード
フレッシュ賞受賞
- 取組パターン：連携型
- 主力商品・イベント：
ハーブ、ハーブ加工品、レモン、ジャム、
ドレッシング、在来種野菜、味噌加工品

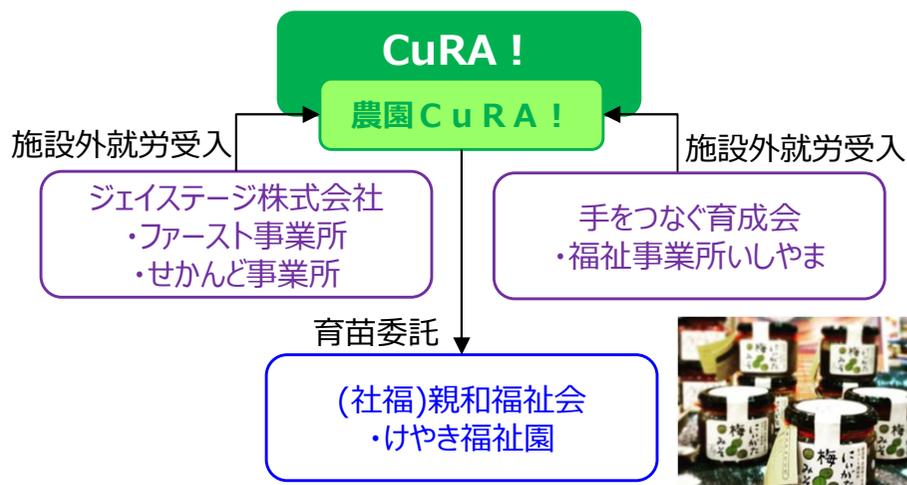


取組の概要

- 農園CuRA!は、当園スタッフと健常者1名、パート雇用2名、施設外就労受入を2箇所の事業所から行い、育苗作業を1事業所に委託し、経営している。
- 除草や耕耘等の圃場整備から播種、間引き、剪定、収穫、出荷準備、検品、販売等のすべての作業工程に障害者が関わり、責任とやり甲斐を感じることで、生産量・品質向上に繋がっている。
- 新潟市内の特別支援学校の生徒の受入を2018年から毎年実施し、施設外就労の利用者とチームを組み、切磋琢磨しながら協働作業を行っている。
- 周辺農家が生産している果物や野菜と、ハーブを組み合わせ、ドレッシングやジャム等の加工品を製造し、県外でも販売している。
- 2019年には、輸出を視野に入れ、ロシア・フランス・シンガポールへサンプル輸出を実施。
- 2020年から複数の福祉事業所とともに、赤しその栽培から加工を施設の設備や技術に合わせ作業分担し、商品製造をし、一般販売が決定した。

項目	単位	取組当初	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
障害者数	人	3	6	10	17	7	18
農地面積	a	54	61	61	72	74	74
障害者月平均賃金	千円		24,000	139,440	338,640	211,200	366,000

体制図



取組の成果

- 障害者の得意を伸ばすことで新たにできる作業が増え、生産性が3倍以上アップし、販路拡大と売上向上に繋がった。
- 障害者就労者数も、取組当初より増加している。
(2017年：3名→2022年：18名)
- OEM、PB商品の受託が可能となった。



所在地 ▶ 新潟県新潟市江南区嘉瀬3336-4
 連絡先 ▶ TEL:090-8724-6050 FAX:—
 E-mail:niigata_herb_cura@icloud.com
 ウェブサイト ▶ <https://www.facebook.com/niigata.herb.cura>



荒廃農地の増加と地域住民の高齢化という現状

幼少期

きっかけ

両親が経営する学習塾に通う生徒の7割～8割が障害児であったため、周囲に障害者がいることは当たり前であった。次第に、彼等の働く環境に疑問を抱き、「活躍の場をつくりたい!」という思いにつながった。

大量のハーブが欲しいという問い合わせが度々あった

2017年～

新規就農・農福連携スタート

- 販路が確立している作物中心の農業であれば工賃が払えると考え、就農当初から施設外就労を受け入れた。
- 精神疾患のある人が香りで癒やされながら‘やり甲斐’を感じられる機会を設けたいと考え、54aのハーブ園を開始した。(施設外就労受入と援農ボランティアの受入)



新潟市アグリサポートセンターと江南区役所のマッチングを利用。

2018年～

加工製造をスタート。ロシア、フランスなどへ輸出を開始

- 県外にもファンを増やしていくことを目標に、フレッシュな商品よりも高単価で日持ちする加工品を一次生産と並行して製造することにした。
- 新潟県内や日本国内だけでは販路が増えたとしても頭打ちになる。世界に出荷していくことができれば、今関わっている福祉事業所だけではなく、ほかの施設なども仕事が少ない時に製造して作りだめていくことで、常に仕事する環境が用意できると考えた。



稲作と果樹栽培は盛んだが、色味がある花などが地域にはない・・・

2020年～

エディブルフラワーの生産を開始

- 高齢であっても、言葉など表現が不自由でも、「きれい」「いい香り」など感動を共有できる景色を作り出し、それを地域の高齢者やUターン組とのコミュニケーションツールの一つとして利用していきながら共生を目指している。



新潟市12次産業化推進計画

2023年～

分散していた圃場を集約するとともに、県外の販売先を大幅増加

- 分散していた圃場を1カ所に集約することで、栽培管理をしやすくし作業効率を上げた。
- 商談会等に積極的に参加することで新潟県以外の販売先の開拓を進め、関西、東海地方に取引を拡大することができた。(2018年1件→2023年8件)

今後の展望

グローバル展開・香りと彩りで明るい世界をつくる

- ハーブや花を生産する面積を少しずつ拡大し、五感で感じながら働くことができ、近隣住民もコミュニケーションが図りやすく居心地のよい職場・居住環境を作っていく。
- 積雪地帯ではハーブ等の栽培が難しい面があり、温暖な地域での農福連携を模索中。

